

press release

ノボ ノルディスク ファーマ株式会社

2016年12月1日
PRESS-16-32

インスリン デグルデク/インスリン アスパルト 配合溶解インスリンアナログ注射液 ライゾデグ®配合注 フレックスタッチ® 投薬期間制限解除のお知らせ

ノボ ノルディスク ファーマ株式会社(社長:オーレ ムルスコウ ベック、本社:東京都千代田区)は、ライゾデグ®配合注 フレックスタッチ® (以下、ライゾデグ®配合注)が2016年12月1日付で、投薬期間制限が解除となったことをご知らせします。今後、2週間以上の処方が可能になります。

ライゾデグ®配合注は、持効型溶解インスリンのインスリン デグルデク(70%)と超速効型インスリンのインスリン アスパルト(30%)がフレックスタッチ® (3mL、100単位/mL)に含有された製剤です。

混合型インスリン製剤を使用している2型糖尿病患者さんの約60%は、HbA1cの目標値に達していません。¹⁾*また、インスリン懸濁製剤を使用する60%以上の患者さんが十分な懸濁ができていませんでした。²⁾ 不十分な懸濁操作は、血糖コントロールや低血糖の発現頻度に影響を及ぼす可能性があります。^{3,4)}

混合型インスリン製剤を1日2回投与していますが、十分に血糖コントロールが得られていない患者さんや低血糖発現の課題のある患者さん^{5,6)}、基礎インスリン製剤と経口血糖降下薬の併用療法よりも効果的に、低血糖を増やすことなく血糖コントロールを改善したいが、頻回投与が難しい患者さん⁷⁾にとって、ライゾデグ®配合注は、シンプルなインスリン治療の選択肢を提供します。

ノボ ノルディスク ファーマのマーケティング本部長であるジョン ドーバーは、次のように述べています。「ライゾデグ®配合注は、当社の最も新しい革新的な製品です。ライゾデグ®配合注は、基礎分泌と追加分泌のインスリンが1本のペンに含有されており、これまでの混合型インスリンと比べて低血糖の発現頻度も低く、注射前の懸濁操作も不要なため、より簡便な治療で血糖コントロール改善を望んでいらっしゃる患者さんのお役に立てると確信しています」

日本において、これまでに3万6,000人以上の患者さんに使用されています。**

ノボ ノルディスク ファーマは、十分な血糖コントロールが得られていない2型糖尿病患者さんの血糖コントロール改善のため、医療従事者のお役に立てるよう、ライゾデグ®配合注の適正使用の推進に努めてまいります。

* HbA1cの目標値は米国糖尿病学会/欧州糖尿病学会の推奨値である7%を使用しています。

** 出典: Copyright © 2016 QuintilesIMS. 2016年9月、IMSデータ (無断転載禁止)

References

- 1) Holman RR et al. : N Engl J Med 357(17): 1716-1730, 2007
- 2) 田中 正巳他:天理医学紀要 13(1): 55-62,2010
- 3) 朝倉 俊成他: PRACTICE 23(5): 577-580, 2006
- 4) Jehle PM et al.: LANCET 354(9190): 1604-1607, 1999
- 5) Kaneko S et al. : Diabetes Res Clin Pract 107(1) : 139-147, 2015
- 6) Fulcher GR et al. : Diabetes Care 37(8) : 2084-2090, 2014
- 7) Onishi Y et al. : Diabetes Obes Metab 15(9): 826-32, 2013

ノボ ノルディスク ファーマ株式会社は、デンマークに本社を置くグローバルヘルスケア企業であるノボ ノルディスク社の日本法人です。ノボ ノルディスク社はインスリンの発見から間もない 1923 年にインスリンの製造販売を開始し、以来 90 年以上にわたり継続的な研究開発と世界の国々への安定供給を通じ、糖尿病ケアの革新をリードしてきました。また、糖尿病領域における研究開発の歴史により培われた数々の強みを活かし、成長障害や血友病など長期にわたり医薬品を必要とする疾患においても、その治療法の革新に取り組んでいます。ノボ ノルディスク社は現在 75 カ国に約 42,300 人の社員を擁し、製品は 180 カ国以上で販売されています。日本法人は 1980 年に設立されています。